

「地域活性化に力」

渡会県議 本社で新年の抱負



豊橋市選出の渡会克明(公明)が3日、年始あいさつに東愛知新聞社を訪れ、藤村正人社長と対談。「今年も現場第一主義を貫き、東三河県庁のおかげ

き、中小・零細企業への支援はじめ、地域活性化に力を入れたい」と抱負を語った。

「(昨春開設された)で、地元と県との風通しが良くなった」と評価する渡会氏。懸案の企業支援については、資金繰り対策など足元を固めることのできる施策に加え「積極的にアジアへ進出できるよう、県が道筋をつけることが大切。可能性を広げ、いろいろなこと

が見えるようにしたい」と強調した。

その一方で「東三河の中でも、豊橋は足踏みしている。何とかしなければ」と危機感を隠さない渡会氏。「当たり前の人が当たり前になって、どんどん小粒になり、投資意欲をなくしている。東三河県庁によって県との距離が縮まったのだから、もっとうまく利用できるか」と、強いリーダーシップが必要との考えも示した。

最後に「(自公政権により)国に物申すことができ、組織力と小回りが効く武器がある。良いことはすぐやり、困っていることに対応していく」と、改めて地域活性化への意欲を語った。

(藤田彰彦)